

シンポジウムにて
11月5日(土)に市民会館で開かれた「スローライフシンポジウム」にあわせて、恐竜のまち推進部会などが同会場で、活動の様子の展示や新たな特産品の販売などを行いました。

上丹生まちづくり団体と交流

11月6日(日)に、滋賀県米原市からまちづくり団体「上丹生プロジェクトK」が視察に来られ、北谷町谷区で交流会を開きました。

まず、エコ協の成り立ちや現在の活動を発表し、「谷のはやし込み」も披露しました。昼食は、なめこ汁「縄文の里料理研究会」が作った郷土料理のお弁当をいただきました。



恐竜部会のブース



上丹生との交流会の様子



心象風景の屏風(レプリカ)

新規チャレンジ事業の部
2次募集結果

新規2団体へ
助成が決定!

のむきエゴマ食品
研究倶楽部

主な活動▶エゴマを使った食品の開発

勝山そといくの会

主な活動▶自転車を使った自然体験の企画・運営

勝山市の
活性に向けた活動が
楽しみです

その後、上丹生プロジェクトKから活動のご紹介がありました。その中でも、昭和30年代の村の様子を心象風景として描いた大きな屏風の製作話が興味深かったです。

メンバーが、村のお年寄りから暮らしの思い出を聞き取り、それをもとに1年半かけて地元の彫刻師が1人で絵を仕上げました。大きさは縦1.7m、横3.7m。画面左から右へ春夏秋冬の移り変わりとともに、山の麓には集落全

ての家が描かれ、その中に昔の冠婚葬祭の様子や農作業風景、子ども遊び、水害など災害の記憶が細かく描かれています。

メンバーの熱い語り口に、上丹生の全世代の人の思いが凝縮されているこの屏風絵は、「地域の宝」として地域の心を結び付けているのだなと実感しました。

◎ 未来創造課(市役所2階)
(☎88・1115)

歴史の散歩道 (134)

長山公園の入口付近に「秦先生遺徳碑」がある。この碑は大正十年十月に建立され、撰文・文字の揮毫は黒木安雄、篆額は男爵佐藤進によるものである。今回は、碑文に従って秦勤有の生い立ちや業績、人柄等について述べる。

勤有は、天保四年(一八三三)に秦魯齋の長男として生まれた。勤有は通称で、幼少の頃は「鉄太郎」と呼ばれ、諱は親精であった。十五歳で京都に渡り梅田雲濱に儒学を、百一に医学を学ぶ。嘉永五年(一八五二)に帰国し、二十歳で藩の侍医に任せられる。翌年、瑞竜公(七代長貴)に従って江戸に出て杉享二に、安政三年(一八五六)には杉田玄端、佐倉の佐藤尚中(順天塾)に洋医学を学んだ。「二杉一藤皆洋法(洋医学)ノ名医也。當ニ是ノ時洋法未ダ熾ナラズ。学者未ダ夥カラズ。而ルニ先生己ヲ虚フシ新ヲ謀リ俛焉(努め勤しむ)トシテ懶ラズ。人其明ヲ称ス。安政六年始メテ屍ヲ勝山ニ解ク」とあり、洋医学がまだ行われていない中で、進んで洋医学の普及に努めたことが述べられている。また、伝染病が屢々おこると身を挺してこれに当たり、その勇気を称せられたという。刑死者の解剖は大野郡最初のもので、遺骨は勝山

勝山にいち早く
洋医学を導入

成器堂一代目学頭 秦勤有

医師会標本として深谷医院にあったが、現在は大行寺に安置されている。

文久二年(一八六二)、父魯齋が高齢となったので「先生医官ノ長ト為リ、且ツ成器堂ノ学政ヲ掌ル。是ニ於テ孜孜トシテ英ヲ育シ、人材ヲ成就ス。明治四年(一八七二)ニ至藩廃サレテ罷ム」とあり、二代にわたる成器堂に於ける立派な業績を称えている。また、明治政府が成立すると侍医兼監察の職に就くが、志が合わなかったため官職を止め、医学に専念した。明治九年に勝山医師会を組織し、同一年、高沢彰(元勝山藩医)と図り勝山私設病院を起こしている。なお、商業の発展を図り、同二十七年に勝山銀行を設立し、三の丸製糸の設立にも加わっている。同四十一年、七十六歳で没し、義宣寺墓地に葬られる。「秦親精・木下竹子(母)合葬之墓」と刻まれる。

※碑文の引用部分は書下し文とした
文化財保護委員 増田公輔



秦先生遺徳碑

図書館行事案内



大切な1冊に
「フィルムコート」をかけよう!
(各定員5名)
12月10日(土)
10:30~11:00
11:00~11:30

人形劇とピアノのお楽しみタイム!
「おじいと、おばあと、きつねのコン太」
12月11日(日)
14:00~14:45

冬休み子どものつどい
「紙芝居おじさん『のまりん』がやってくる!」
12月23日(金・祝)
14:00~15:00

おはなしでてこい
12月10日(土)
14:00~14:45

絵本の森 — 読みきかせ会 —
12月17日(土)(Voice)
14:00~14:30
12月24日(土)
14:00~14:30

クリスマススペシャルライブ
「はやおき亭貞九郎さんの親子で楽しむ落語」
12月25日(日)
14:00~15:00

スペシャル上映会
「大決戦!超ウルトラ8兄弟」
12月11日(日)
10:00~11:45

赤ちゃんとおほんの日
— 赤ちゃん絵本の紹介とよみきかせ —
12月23日(金・祝)
10:30~11:00

絵本と手品のつどい
— K&ピエロ —
12月28日(水)
14:00~14:30

国史跡白山平泉寺旧境内ガイダンス施設 愛称決定!

白山平泉寺歴史探遊館 まほろば



完成イメージ図

梅川謙次さんの作品
(兵庫県神戸市)
「まほろば歴史館」

赤羽梧良さんの作品
(神奈川県川崎市)
「平泉寺まほろば館」

◎ 史蹟整備課(教育会館2階)
(☎88・8113)

まほろばとは、「素晴らしい場所」「住みやすい場所」という意味の古語です。

10月13日から11月14日まで国史跡白山平泉寺の総合案内施設(ガイダンス施設)の愛称を募集したところ、県内外から347名の応募がありました。

選考委員会で選考した結果、採用作品はありませんでしたが、下記の2点の作品を参考に愛称を決定しました。